

谷中小学校

2018年6月26日

本報告は、谷中小学校に訪問したスーザン先生の訪問見学について記録したものである。本報告者は、通訳の手伝いをしつつ、授業や諸活動の様子を観察する立場であった。

訪問では、1年生から6年生までのそれぞれの授業以外に、給食や掃除も見学した。最初に見学した音楽の授業では、スーザン先生は音楽室の日本の伝統的楽器に興味を示した。そして2限の図工の授業において、スーザン先生は、日本の小学校の美術用品が充実していることに感心し、また、壁に貼っている言葉に感動された。掲げられていたのは、美術の時間はただ絵をうまく描くだけでなく心をこめて世界を感じる時間でもあるという言葉であった。午前中の授業の後に、スーザン先生は生徒たちと一緒にご飯を食べた。最初は生徒たちがシャイで何も話さなかったが、一人のハーフの子どもが最初に話したおかげで雰囲気は活発になった。食事後、1年生の教室に、6年生が掃除の指導をしに来て、校長先生も参加した。そして最後の生活の授業では生徒たちが日本の伝統的な遊びを紹介し、その後のグループに分かれて遊ぶ時間ではスーザン先生が生徒たちのグループに参加してコマやけん玉と一緒に遊んだ。

(修士 周佳恒)

谷中小学校

2018年6月27日

アメリカの小学生の生活を地理的に表した絵本を1ページずつ書画カメラで映し出ししながら、スーザンさんが説明していくのを必要に応じて越智が日本語にしながら授業を進めた。スーザンさんは黒板の中央に縦線を引き、左右にアメリカの小学生と日本の小学生の生活の共通点と相違点を絵本の内容に合わせて書き出していった。絵本に書かれた英語の短い文を子どもたちにリピートさせていった。ページをめくるごとに、アメリカの小学生の地理的な位置が、アメリカという大きな単位から、州、地域、近所、家、部屋へと小さくなっていく。そのページごとに日本の子どもの置かれている地理的な位置もだんだん小さくしていき、アメリカの小学生と日本の小学生とが呼び方の違う部分もあるけれど、世界の中で同じように暮らしていることを確認していった。スーザンさんは他にも時差を表す早見表の立体模型を作成する案などいくつか用意されていたが、時間的に絵本の終了と授業時間の終了が重なったので授業を終えることになった。子どもたちは全体的にはおとなしくよく聞いていて、行儀良くしていた。中にはポカンとしている様子の子どももいたが、概して積極的に絵本の内容を通したスーザンさんの問いかけに、答えようとしていた。

(特任准教授 越智豊)